

# 田んぼにはなぜ水をためるの？

みんなが毎日食べているお米は、田んぼで作られます。イネ（水稻）を育てる時には田んぼに水をほります。コムギやダイ



ズなどは、水をはると根の呼吸ができなくなって死んでしまいます。一方イネは、もともと熱帯の沼地に生息していた植物だったので、水をはった田んぼの方が元気に育ちます。イネの根には空気の通路があつて、葉や茎から根へ空気が運ばれてくるからです。

田んぼに水をはってイネを育てることに、様々な利点があります。

まず畑では、雨が降るとドロドロになってトラクタ

が畑に入らず、耕すこともできず、乾くまで種播きができなくなります。一方、田んぼでは、雨が降っても、そもそも水が張つてあるので、専門の機械を使って予定どおりに代掻きや田植えをすることができま

す。次に、水がはつてあると雑草の種子が呼吸できなくなり、芽が出にくくなります。イネはあらかじめ育てた苗



を移植するので問題がありませんし、畑で種から育てるよりも田んぼで早く大きくなることができます。仮に雑草の芽が出たとしても、イネの傘の下で光がほとんどあたららないので、生育がおさえられます。また、水の中は意外と暖かく、特に田んぼの水を深くするとイネは保温され、幼い実を冷害から守ることもできるのです。

病害虫に対しても、畑では同じ場所に同じ作物を数

年栽培し続けると、土壌の病害虫が増加して、収量が低下します。でも、田んぼでは、水をはることで土壌の病害虫がすみづらくなるので、何年も続けてイネを栽培することができま

す。最後に、田んぼは環境にやさしい農業ができます。山から流れる養分豊かな川などの水を用水路から使っているの

で、洪水を防いだり、トンボやカエルといった生き物たちの大切なすみかも提供しています。

このように、雨が多く、水が豊富な日本の田んぼに稲を作ることは、たくさんお米をとることに同時に豊かな環境作りにも役立っているのです。

